

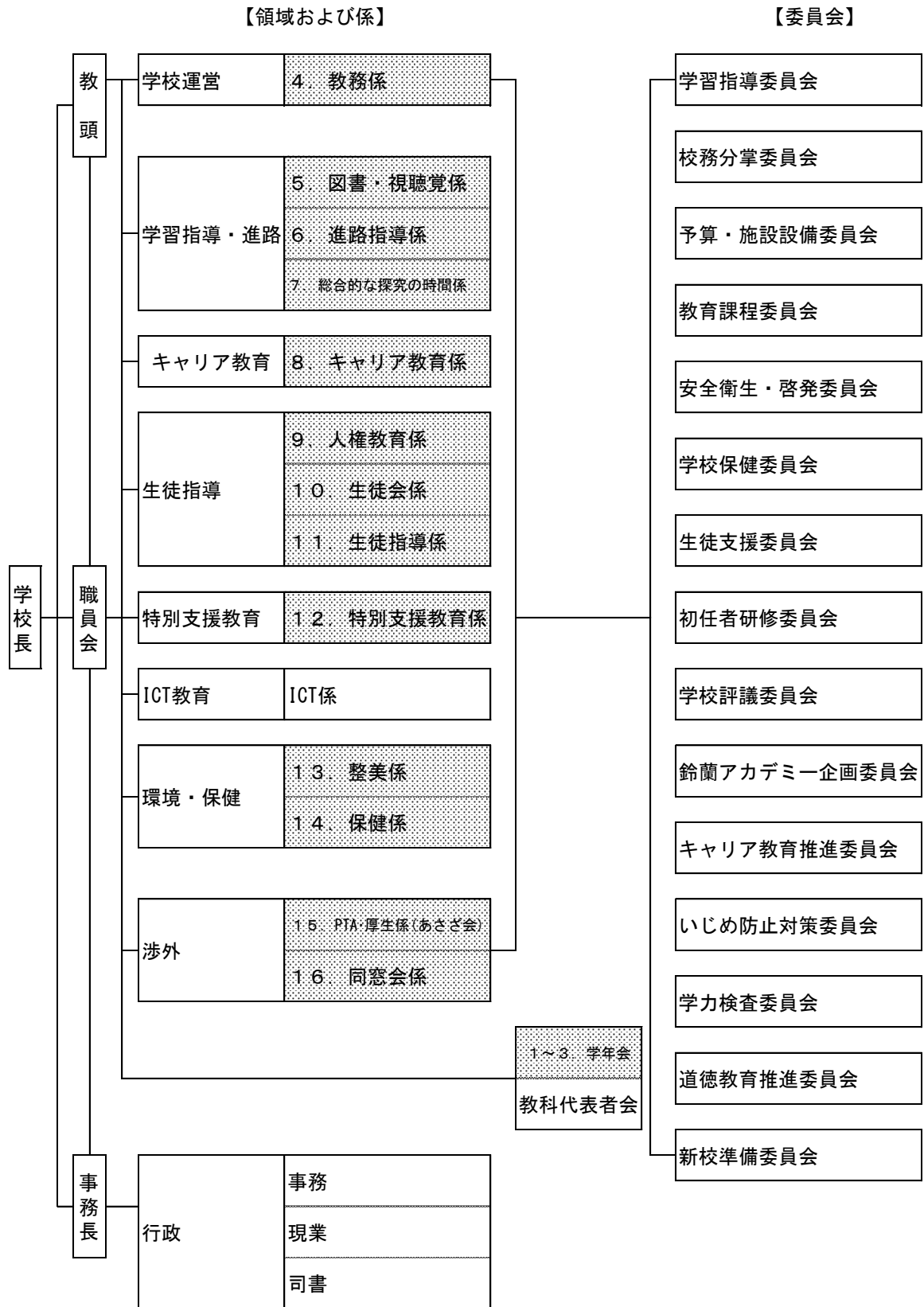
令和4年度

学校評価



長野県野沢南高等学校全日制

学校組織図



令和 4 年 度 【 1 学 年 】 評 価 個 票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 時間と期限を守ることができる生徒。 ② 率先して挨拶ができる生徒。 ③ スマホの適切利用ができる生徒。 ④ 礼儀正しくルールや規範を守る意識の高い生徒を目指す。		① 守ることができなかつた生徒もいたがほとんどの生徒はできていた。 ② 多くの生徒は挨拶ができる。 ③ 授業で使う機会が多い。ゲームなどで使用する生徒がいて十分適切であったとはいえないが、概ねできている。 ④ 全体的にはできている。			B	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	「時間と期限を守る」	5分前行動、提出物の期限を守ることができたか。	ほとんどの生徒はできているが、一部生徒は遅刻したり提出できない生徒もいた。		○	
2	「率先して挨拶」	日常生活で挨拶が率先してできたか。	ほぼできていた。	○		
3	「スマホの適切使用」	節度を持ったスマートフォンの使用ができるか。発言、発信に責任をもてるか、注意喚起できたか。	授業で使う機会が多く必需品ではあるが、スマホ依存の生徒が多い。1学期には情報発信で不適切使用で指導もあり課題が残った。また、ときどきゲームをしている生徒もいたので注意をした。		○	
4	「安全で平和な秩序ある学校」	違う価値観を受容し、いじめやヘイトのない環境を作ることができたか。	個人の価値観を尊重することはほぼできた。SNSの使い方に気をつけていきたい。		○	
5	「ルールや規範を守る意識」	お互いを尊重する意識を日常生活で当たり前を持ち続けられたか。礼儀正しい態度で生活できたか。	ほぼできていた。	○		

令和4年度【2学年】評価個票

今年度の重点目標			領域の評価(成果と課題)		総合評価		
⑤ 時間と期限を守ることができる生徒。 ⑥ 率先して挨拶ができる生徒。 ⑦ スマホの適切利用ができる生徒。 ⑧ 礼儀正しくルールや規範を守る意識の高い生徒を目指す。 ⑨ 進路目標を明確にし、進路実現に向け努力を継続できる生徒。			① 一部生徒に遅刻常習者、未提出者がいるが、おおむねできた。 ② おおむねできた。 ③ スマホ依存の傾向は強い。 ④ おおむねできた。 ⑤ 未定者もいるが進路目標を明確にしつつある生徒が多い。		B		
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C	
1	「時間と期限を守る」	5分前行動、提出物の期限を守ることができたか。	5分前行動まではいかなかったがほぼ授業開始には準備できていた。 提出物の期限は守れる生徒が多かったが一部できない生徒もいた。		○		
2	「率先して挨拶」	日常生活で挨拶が率先してできたか。	ほとんどの生徒ができた。	○			
3	「スマホの適切使用」	節度を持ったスマートフォンの使用ができるか。発言、発信に責任をもてるか、注意喚起できたか。	授業で使用するケースも多く適切使用できたことも多いが休み時間ゲーム等で使用する生徒も多数いた。		○		
4	「安全で平和な秩序ある学校」	違う価値観を受容し、いじめやヘイトのない環境を作ることができたか。	全く問題がなかったわけではないが、ほぼ平和に過ごせた。個々には不登校傾向の生徒は多くいた。	○			
5	「ルールや規範を守る意識」	お互いを尊重する意識を日常生活で当たり前を持ち続けられたか。礼儀正しい態度で生活できたか。	遅刻の常習が少数いたが、規範遵守の意識は高かった。	○			
6	「進路実現に向け努力を継続できる」	進路目標を明確にし、進路実現に向けてモチベーションを高め、努力を継続できたか。	進路未決定な生徒もいるが、進路を考え次年度コース、選択を真剣に考える生徒が多かった。		○		

令和 4 年 度 【 3 学 年 】 評 価 個 票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 進路選択における自主自律：「授業、学校行事、部活等、自ら主体的に参加し、進路実現に向けた表現力を育成する。総合型選抜及び学校推薦型選抜だけでなく、一般選抜でも対応できる生徒の育成」 ② 学力の育成：「知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を構成し、受験に自らが挑戦して勝ち抜く力を育成する。」 ③ 入試を団体戦として捉え学年一丸となって取り組む姿勢を作り上げる。 ④ 生活目標：「時間厳守」「心のもった挨拶」「スマートフォンを正しく使う」「TPOを守る(服装態度)」「より高い目標への挑戦(特活、部活、生徒会、ボランティア)」「整理整頓・清掃の徹底」		①最上級生に進級し、高校生活を主体的に充実させようとする生徒が多く、進学に向けて学習に対する姿勢も良かったと考える。後輩達の指導も生徒会活動、部活動双方において、良く面倒を見ていた。 ②全ての生徒にこれらの目標を達成することは困難であったが、3学年担当の先生方の尽力で、様々な場面で成長、向上が見られた生徒が多い印象である。 ③進路指導主任の主導の下、細やかな指導、生徒達に親切に対応できたと考える。 ④スマートフォンについては、これに生徒が依存している側面を感じ、3年になってもゲームで遊んでいる生徒が多数見受けられた。これを抑制することは、今のIT時代に生きる生徒達には至難の業と思われる。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	「進路選択における自主自立」	学校生活における様々な活動を通し、進路実現に向けて自主的に調査、研究、研鑽を重ねられたか。	真剣に進路研究し、自分の将来と目標を定め、この実現のため努力する生徒が大半であったと判断する。	○		
2	「学力の更なる育成」	受検に必要な知識、技能、思考力、判断力等をつけるためには、どうしたらよいかを考えさせ、主体的に学習に取り組む姿勢を育てることができたか。	模試の活用をもう少し意識的に行う必要を担任全てが感じていたものの、なかなか具体的に取組めなかった。スタディサプリを利用する生徒が多く、これは学力向上につながったと見る。		○	
3	「学校行事への前向きな取り組み」	コロナ禍の中、文化祭等の行事を、学校全体のために、最高学年として最善の企画運営させることができたか。	文化祭が制限されてはいたが、来客を得たことで非常に活性化し執行部を中心に楽しく充実した行事になった。	○		
4	「スマートフォンの適切な使用」	節度を持ったスマートフォンの使用ができるか。発言、発信に責任をもてるか、注意喚起できたか。学習等に必要となるアプリを使いこなせたか。	No.2にも述べたが、学校教育でスマホの活用機会が増える中、注意喚起すれど、中毒的、依存的側面は改善の余地があると考える。			○
5	「時間厳守」、「挨拶」、「TPOを守る」等、最高学年に相応しい行動が出来るか。	高校生活の総仕上げとして、年齢に相応しい行動が出来るか。また、法改正により、成年年齢に達した生徒に、その自覚を促せたか。	今後の教育計画にも含まれるライフデザイン教育、契約、借金、権利拡大等についても学ぶ機会を設けて意識の向上を目指している。	○		

令和4年度【学校運営】領域（教務係）評価個票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 生徒の学習環境の改善に努めるとともに、危機管理を行い、想定されるさまざまな災害・事故・事件に備える。 ② 行事や会議等の企画・運営に関し、校内の各部署と綿密な連携をとり、より効率的で円滑な学校運営を図る。 ③ 公式ホームページの定期的な更新や「野沢南だより」等の発行を通じ広報活動をより充実させ、開かれた学校づくりを進める。		新型コロナの感染状況によりオンライン授業なども行いつつ、年間行事もほぼ計画通りに実施できた。危機管理の面では、防災機器の取扱について研修し、3年ぶりに校庭への避難訓練を実施して改善点も明らかになった。 学校運営の面では、状況に合わせ関係部署と連絡を取りながら進めることができた。 公開授業は見送っているが、ホームページの全面リニューアルを行ったり、「野沢南だより」の発行をしたりして、情報発信を図った。今後もより充実した内容になるよう努めたい。			A	
No	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	危機管理 防災訓練の運営	危機管理を進め、災害、事故、事件に対する備えができたか。	危機管理の観点から、防災機器の取扱について研修を行った。また、防災訓練では、10月3日に消防署から講師を招き、地震発生と火災発生を想定して、避難訓練と消火器による消火訓練を実施した。その中で緊急用ハンドマイクや校内緊急放送設備の改善点も見つかった。	○		
2	時間割、行事計画、日課等の検討、運用	立案、運用を適切に行い、生徒の学習環境の改善につなげることができたか。	新型コロナの感染状況により各学年オンラインによる授業も数日行っていたが、概ね偏りのない時間割や行事計画を立案、運用でき、生徒の学習環境を保つことができた。	○		
3	職員会議、成績会議、朝会の企画・運営	会議を適切に企画、運営できたか。	会議に向けての資料のペーパーレス化やC4THによる成績会議資料の作成で効率化を図った。また、引き続き chat を用いての連絡で会議の時間短縮に努めたい。	○		
4	入学式、卒業式、始業式、終業式の運営	関係部署と協力し、効率的で円滑な運営ができたか。	関係部署と意見を調整し、円滑な運営を行うことができた。始業式や終業式については、来年度に向け映像で各教室に配信できるよう準備を進めている。	○		
5	体験入学、公開授業の企画運営	PR活動・渉外活動を含め、企画、運営を適切に行うことができたか。	体験入学では生徒会等の参加も望まれたが、コロナ禍では今回の授業を体験するスタイルが妥当なものであった。残念ながら参加できなかった生徒もいたが、参加者の感想をまとめて本校職員に配布し、一定の成果を上げることが出来た。 公開授業は新型コロナの感染状況により中止したが、来年度は実施の方向を考えている。		○	
6	公式ホームページの運用	更新を適切に行うことができたか。より閲覧しやすいページを目指し改良を重ねることができたか。	閲覧しやすく、様々なデバイスに対応したレイアウトへと、全面リニューアルを行った(9月)。閲覧者別に必要な情報を素早く閲覧できる工夫をし、内容も分かりやすいように心がけた。WEB版「野沢南だよりミニ」を発行。紙版では扱われなかった校内行事を中心に掲載した。今後も継続して情報発信の充実に向け、改良していきたい。	○		
7	「野沢南だより」の発行	内容において充実を図る等の工夫を重ねることができたか。また、発行を通じて広報活動をさらに充実させることができたか。	今年度は第6号まで発行することができた。(今年度中にさらに1号発行する予定) 写真を多く使用することによって、より本校の生徒の様子が分かるように工夫した。近隣地区、各中学校への配布を今後も継続して行い、開かれた学校づくりをさらに進めていきたい。		○	
8	校内ネットワーク環境の維持管理	維持管理を適切に行うことができたか。トラブルに対して迅速・的確に対応できたか。	行政NWのDHCPサーバーの導入時に通信障害が起こってしまったが、事務と連携して原因究明・復旧することができた。またその他のトラブル等はおおむね迅速に対応することができた。		○	

令和4年度【進路学習指導】領域(図書・視聴覚係)評価個票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 朝読書の充実を図る。 ② 図書委員会活動の活性化する。 ③ 明るく利用しやすい図書館にする。 ④ 芸術鑑賞の企画・運営を、校内の各部署と連携と取りながら実施する。 ⑤ 視聴覚機材を各部署が充実して使用できるよう、維持管理をする。		○委員会活動については、書店での図書選定、文化祭の新企画展示など、新たな取り組みを実施することができた。 ○総合的探究での調査支援、定時制の授業への支援(選書)など新たな連携の形を整えることができた。 ○古典芸能に親しみを持ってもらうことができた。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	朝読書及び読書指導	生徒が朝読書を通じ、書物に興味を持ち楽しく読む姿勢をつくり得たか。	日課として朝の読書を実施。貸出数の増加には結びつかず、クラス文庫の更新を増やした。		○	
2	委員会活動	当番活動を始めとして、広報活動・選書活動・調査活動等に積極的に取り組めたか。特に貸し出し冊数の増冊ができたか。	委員会の各種行事を遂行。加えて、書店での図書選定、広報活動、文化祭の新企画展示、今日のごと書き換えなど、新たな取り組みを多数実施した。	○		
3	教科との連携	各教科との連携をスムーズに行い、資料等の情報を提供することができたか。	総合探究における生徒の課題調査支援を強化するとともに、配信授業を実施。定時制(国語)授業内で図書館用図書を選書するなど、新たな連携の形を整えた。	○		
4	蔵書管理システムの活用	図書館活動に十分に活用できたか。蔵書をきちんと管理できたか。	InternetExplorer サポート終了にともない、教職員端末からの蔵書検索が困難になった。蔵書システム内の整備は進行中。		○	
5	レファレンス・サービス	利用者からのレファレンスに対し、他館との連携などにより、資料の提供ができたか。	生徒および教職員からのリクエストに応じ、県内高校図書館と県立長野図書館から、のべ50冊以上の資料を収集、提供。	○		
6	視聴覚・情報機器の管理	機器の管理・保全ができたか。	貸借希望に応じて貸し出しをすることができた。	○		
7	芸術鑑賞の運営	生徒の関心と芸術的感性を高める企画であったか。	芸術鑑賞では落語を鑑賞してもらい、古典芸能について生徒の関心を深めることができた。	○		

令和4年度【進路学習指導】領域（進路指導）評価個票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 進路実現に向けた主体的な活動を支援する ② 多様な入試に対する受験指導を行う ③ 保護者から進路指導への理解と協力を得る ④ 職員の間で進路情報の共有を図る ⑤ 校外模試に基づく受験指導を細目に行う ⑥ 総合的な探究の時間係や鈴蘭アカデミーとの連携及び協力を図る		今年度も新型コロナウイルス感染症第7波第8波の影響により、大学出前授業(7月末)やようこそ先輩(1月末)が一部オンライン開催となったり、特に大学受験を控えた3年生の特編授業の実施方法に一部工夫をするなど、対応に苦慮する面はあったが、年度計画は概ね実施できた。			B	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	適切な進路指導	進路計画に基づき系統的な進路指導ができたか。	1・2年では生徒の学力実態を鑑み、3学期に年度計画の変更(模試から小論文指導へ)を行うなど必要に応じた柔軟な対応ができた。		○	
2	学力の向上 (自立学習支援)	学力向上に向け学習への自立支援ができたか。	高大接続事業の学習ツールを使い、学力向上に向けた学習及び進路指導ができた。特に2年生においては、3学期の補習を12月に前倒して実施した。		○	
3	学校推薦型選抜等の組織的指導	丁寧な指導ができたか。	当該生徒に必ず指導職員が付き、小論文、面接、プレゼン、口頭試問などの指導を行った。指導上、複数の職員で指導内容を分担連携するなど、組織的な指導ができた。	○		
4	保護者との連携	進路指導への理解協力を得られたか。	保護者説明会の実施や受験関連の通知発行等を通して全体かつ個人的な理解を求め生徒への指導に当たることができた。	○		
5	情報の収集と共有	進路情報を共有し的確な指導ができたか。	多種多様な進路情報を取捨選択して、生徒及び担任並びに係職員等の中で情報の共有を図った。		○	
6	一般選抜の進学指導	模試の分析と継続的な受験指導ができたか。	進学希望の生徒との面談を適宜行い、大学受験の体系的知識を教えながら、志望校を絞り込む指導を継続的に行った。		○	
7	勤労観・職業観の育成	総合的な探究の時間係と連携できたか。	大学出前授業やようこそ先輩など、その趣旨に係及び職員が理解して支援することができた。		○	

令和4年度【進路学習指導】領域（総合探究）評価個票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 年間を通じた適切な指導計画、評価基準に基づき授業を展開する。 ② 課題別テーマ別探究活動を通して体験的学習等を取り入れながら、自分の将来像を主体的に模索し、キャリア形成の基礎の定着を図る。 ③ 進路指導係、キャリア教育係との連携と推進を図る。		新たな総合的な探究活動への理解をいただき、全職員が分野別に生徒の探究活動をサポートし2年目となった今年は、3学年生徒の振り返りから探究活動を経験しての前向きな意見が多数あり一定の成果を得られたと言える。しかし変わらずコロナ禍での影響もあり、校外での体験的な学習に向かう姿勢に乏しいことは否めない。今後も探究活動によるキャリア形成の基礎の定着を軸に、生徒が主体的に取り組める授業の展開を模索していく。			B	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	各分掌との連携	進路指導係やキャリア教育係と連携を図りながら指導を行えたか。	進路指導係との計画立案及び実施に向けた情報共有に加え、ICT係や図書係との連携によって、探究活動を展開できた。今後、安定的な連携に向けた工夫が求められる。	○		
2	授業計画の立案と実施	総合探究が意義のあるものとなるような授業計画の立案とその実施を計画的に実施できたか。	係を中心に諸活動計画を適時立案してきた。コロナ禍でも対面の授業を基本とし展開できた。生徒の振り返りアンケートの結果を踏まえ、今後も引き続き生徒が学びを楽しめる方法を模索していく。		○	
3	評価基準に基づいた振り返りや適切な助言	評価基準に基づいて、適切な時期に振り返りや適切な助言ができたか。	3観点評価基準に基づいて、振り返りや相互評価に向けて適切に助言できた。今後も、適切な時期に適切な助言が生徒間或いは生徒教師間で活発に行えることを目指す。	○		
4	自己理解・社会理解の促進	キャリアガイダンス・講演会・キャリアインターンシップ・「ようこそ先輩」など効果的に取り組めたか。特に、課題別テーマ別探究活動は充実した実践につながったか。	徐々にキャリア教育に関わる行事もコロナ前の状況に戻りつつあるが、十分とは言えない。こうした状況下だからこそ、探究活動において各自のテーマにあった場所に出向き、体験的な学びを通して自己理解・社会理解を進めるべきという認識が必要と言える。		○	

令和4年度【キャリア教育】領域（キャリア教育）

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 生徒の将来の職業選択や自己実現のために必要な人生観を育む探究的な学びの援助を行う。 ② 生徒自身の自己理解を深める援助を行う。 ③ コミュニケーション能力を育むための条件を整える。		コロナ禍でも、生徒の自己理解社会理解の深化や人生観を育む学びの援助のために、校内外の方々の理解と協力によってコロナ前に近い形で行事を実施できた。今後も、いかなる状況下でも、生徒が様々なことに目を向け理解を深め、厳しい社会情勢において、しっかりとした勤労観を養うことができるよう、一層の工夫が必要とされる。			B	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	自己理解の深化・社会理解の拡大	マインド・マップ、ワークショップの活用、各種行事への参加や各種調査（進路希望・スタディサポート・スタディサプリなど）を通じて、生徒の自己理解の深化を援助できたか。	例年通りの各種調査の分析を通して、自己理解を深める援助となった。「キャリアパスポートー南高自伝史記録ー」も本格導入2年目となり、個々の記録を一層蓄積できた。今後、内容により深みのある記録となるよう生徒に目的意識を持たせたい。		○	
2	コミュニケーション能力の伸張	教育活動のあらゆる場面や探究活動において、コミュニケーション能力の伸張が図れるよう、カリキュラムや行事計画について必要な手だてを講じることができたか。	探究活動の仕組みを構築する中で、学年の枠を越えた生徒間の意見交流、生徒と教師が対話する場面を設定できた。今後、日頃の授業等で一層活発に生徒同士が意見を出し合い、また生徒と教師の対話の機会を増やす工夫が求められる。		○	
3	情報伝達	重点目標実現のために有益な情報（ボランティア・各種体験などの募集）についてICTを効果的に用いて伝達する工夫をし、周知の徹底ができたかどうか。	校外でのイベントが徐々に実施されるようになり、学年、職員、係等で、可能な限り有益な情報の共有を図った。コロナ禍で校外に出ていく機会が減り、また躊躇する傾向にあると感じる。この状況下で生徒の参加を促すことが課題だ。	○		
4	他の機関等との連携強化	外部講師・病院・上級学校・保護者や地域の人々などとの連携を深め、生徒の自己理解や社会理解の援助ができたか。	今年も県内外の大学の協力、ICT機器の利用で「大学出前授業」を実施できた。また病院関係者によるオンライン説明会にも参加した。近隣の大学との高大連携も始まりつつあり、校外に生徒の目を向けさせる工夫が今後も必要とされる。		○	

令和4年度【生徒指導】領域（人権教育係）評価個票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
正しい認識の基盤となる科学的な学習と想像力が、「平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去」することに繋がることを学ぶ。また、「共生」社会を実現するための具体的な行動の仕方について認識を深めさせる。		今年度の人権教育LHRの狙いは、「悩み」という一見ネガティブな状態をポジティブな方向に転換していく方法を入れるとともに、生徒間に「共感」を作るところにあった。生徒一人一人のコンディションが劇的に変化したということはないだろうが、2点の狙いについては、一定の手応えを感じることができた。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	全校人権HRの実施及び前後の取り組み	人権問題についての正しい理解と認識が深まったか。全校人権HRの前後で、必要な段階を踏むことか。生徒にとって、「自分自身の問題」として引き付けることができるテーマを選ぶことができたか。	コロナ禍による分断が進んでいるという背景もあり、悩みに捕まってしまう状態を「その人らしく生きる権利」が疎外されている状態と捉えて、「悩み」にどう対処するかというテーマで取り組んだ。 「悩んでいるのは自分だけではない。みんなそれぞれに悩んでいる」という共感、生徒の中に作ることができたのではないかと考える。	○		
2	職員研修の実施	人権教育に携わる指導者として、教材と教案に関する理解を深めることが出来たか。	事前の職員会等で、それなりに揉むことができたし、生徒の悩みについても職員集団内で理解を深めることは出来たと思われる。		○	

令和4年度【生徒指導】領域（生徒会係）評価個票

今年度の重点目標			領域の評価(成果と課題)	総合評価		
① 計画力・企画力・指導力・調整力を持つ執行部を育成する。 ② 各委員会の活性化を図り、生徒一人一人が委員として自覚を持ち、自主的に行動できるようにする。 ③ 様々な活動を学校内外に発信する。 ④ 今後の自主活動のあり方について探究する。			旧執行部については、新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら、様々な行事を運営することができた。また、仕事量が偏っていた所は、調整し、協力し合いながら行っており、成長を感じる事ができた。新執行部については、全校生徒が関わることのできる生徒会づくりを目標としており、その達成を促す指導をしていくことが課題である。	A		
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	各行事の企画・運営	設定時期・内容・運営が適切であったか。	コロナ対策を踏まえての行事運営のため、直前まで、方向性が定まらず、準備が遅れがちになってしまった。そのため、臨機応変に行動することを求められ、対応力を身につけた。計画段階から、コロナ対策を踏まえて、準備することができた。早め早めに計画を立て、感染状況に左右されない行事運営ができるように指導していく。		○	
2	執行部指導	役員会・執行部会の機能の充実、自主性・創造性の醸成がはかられたか。	定期的に会議を持つことができた。また、登校できないときでも、リモート会議を行い、行事の準備等を進めることができた。リモート会議の効率的な進め方、意見のまとめ方など、ツールを使って行うことができるようになった。	○		
3	委員会活動の活性化	委員長を中心に、多くの委員が活動したか。	委員会内の連携がしっかりとれ、充実した委員会活動ができたところが多かったため、今後も同様に活動できるよう指導していく。	○		
4	委員会活動の連携	委員会間、生徒間、顧問間の連携がはかられたか。	全校生徒に関わってもらおう生徒会にしようとしていたが、執行部からの情報が伝わっていないことがあり、情報の発信の仕方を工夫することが必要である。執行部と全校生徒、執行部と顧問間の連携がもっと密にとれるようになると良い。		○	
5	クラブ活動の活性化	加入・活動人数の増加が図られたか。充実した活動ができたか。	各クラブ顧問の先生方のご指導のもと、例年通り活動することができた。加入・活動人数は昨年度並みであった。	○		
6	文化祭の質的向上	より高いテーマや目標を掲げて準備できたか。学校内外から評価が得られたか。	限定公開ではあったが、一般公開ができた。コロナ対策をしながら、今できることを模索し、最大限の活動ができた。様々なことに対して、執行部全体で、連携を取りながら、臨機応変に対応することができた。	○		
7	地域への貢献	ボランティア活動や地域清掃等を通じて地域への貢献をはかられたか。	生徒会執行部の生徒中心に、定時制生徒会と連携し、2回の地域清掃を行うことができた。学生ボランティアなどにも積極的に活動できるよう支援していく。	○		

令和4年度【生徒指導】領域(生徒指導係)評価個票

今年度の重点目標			領域の評価(成果と課題)	総合評価		
① 学校内外に於ける安全を確保する。 ② 生徒の自律的生活習慣の確立をサポートする。 ③ 生徒の自治的な活動を支援する。 ④ 家庭及び地域との連携をはかり、学校内外での事例に対し速やかに対応できる体制を整える。 ⑤ 生徒集団の意識を高めるための投げかけ・働きかけを意識的に行う。			係としての問題意識は、生徒集団の自治的な力にも依拠しつつ、学校内外に於ける安全・安心を確保するところにある。中々先が見通せないコロナ禍によるストレスが社会全体に掛かり続けている状況下で、不登校傾向を示す生徒は少なくないのがあるが、校内生活における安心・安全の度合いは、高い水準が維持できていると考える。	A		
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	風紀指導	計画通り(年3回)風紀指導を実施したか。	計画通り実施した。基本的に落ち着いた状態にあり、現状を維持したい。	○		
2	交通安全指導	春・秋計2回の交通安全指導、自転車の安全運転、原付安全講習会を実施し、交通安全に対する意識を高めることができたか。	スタントマンによる交通安全教室は、迫真の演技もあり、生徒たちも真剣に受け止めたと思われる。春秋の交通安全週間の取り組みは、例年通り生徒会との共催で実施。大きな事故等はなかったが、安心できる状態ではない。	○		
3	生徒自ら安全を守る主体性・安全意識を高める	交通安全に限らず、身の回りにおける危険を自ら回避する意識をことあるごとに喚起する。	自分たちの安全は自分たちで確保しようという呼びかけは、事ある毎に行っている。一人一人の意識が高まったとは言いが切れないが、言葉としては入っていると思われる。		○	
4	生徒集団の意識を高めるための投げかけ	生徒指導通信等を活用し、様々な問題を生徒に発信をし、各自の問題として考え、解決できるように努めたか。 生徒会委員会と連携が取れたか。	3と重複する部分が多いが、始業式・終業式の際の生徒指導からの話・生徒指導通信を通して、生徒に対する注意喚起及び問題提起を行っている。交通委員会及び風紀委員会との連携は日常的に行っている。		○	
5	指導の公明性	問題行動等、生徒への指導において、その根拠・手続きなどが十分に生徒・保護者に説明されているか。	特別な指導の対象となる所謂問題行動はなかったが、問題行動に対する指導に限らず、指導の内容については家庭にも書面で通知しており、理解は得られていると考える。	○		
6	職員連携体制の確保	目的と情報を共有しつつ、有機的な連携がとれる全職員の協力体制と意識の統一を図ることができたか。	個々の指導案に関しては、係と学年会の合同会議で決定されていくシステムであり、具体的な指導も係・学年の連携で行っており、目的と方法の共有は図られている。	○		
7	保健係、生徒支援委員会等の連携	生徒の心の問題やいじめの根絶等について、保健係や生徒支援委員会等校内の諸機関と十分に連携がはかれたか。	今年度については、他の係との連携が必要となるような事例がなかったため、実際に連携を模索することはなかったが、必要があればいつでも連携できる状態にある。		○	

令和4年度【学校運営】領域(特別支援教育係)評価個票

今年度の重点目標			領域の評価(成果と課題)		総合評価		
①特別な支援を必要とする生徒の支援計画、支援体制の充実を図る。 ②職員向けに発達障がい等の研修会を企画し、障がいについての知識理解を深める。			欠く生徒の必要な支援が行えたが、個別支援においてももう少し早い対応が必要であった。また研修会の企画が遅れてしまい先生方にご迷惑をお掛けしてしまった。		B		
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C	
1	校内の特別支援教育体制の充実。支援体制についての研究及び情報収集	高等学校特別支援教育研究会で学んだ内容を基に、支援計画、支援体制について具現化することができたか。	相談室使用状況及びカウンセリング予定を共通理解とするためスプレッドシート上にて表を作成できた。来年度に向けて特別支援の態勢をどのように深めるかが課題である。		○		
2	実態把握のための情報収集、職員間での連絡調整、支援会議の連絡調整・企画・運営	中学校から情報収集、保護者からの連絡シートによる情報収集、クラス担任、教科担任をはじめ職員からの聞き取り調査による実態把握を行う。定期的に生徒支援委員会を開き、生徒の情報を共有し、生徒支援(相談)について積極的に対策を講じ、解決に向けた取り組みができたか。	中学校からの情報等、生徒の状況把握がしっかりできた。しかし情報量が多くある程度精査して見やすい媒体を作る必要がある。また担当職員用の生徒支援マニュアルがあると良いと感じた。 各担任からの生徒支援に対応することができたが、その対応策を職員全体で共有が必要と感じた。		○		
3	発達障がいの研修会の計画	職員が参加しやすい研修会が計画できたか。また、研修会を行うことによって職員の知識、理解を深めることができたか。	職員研修会が遅れ先生方に多大なご迷惑をお掛けしてしまった。来年度に向け研修会の日程を年歴に入れて早めの準備を心がけたい。		○		

令和4年度【保健・環境】領域（整美係）評価個票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 校舎内外の清掃・美化 ② 委員会活動の活性化		①校舎の外掃についても生徒会執行部と協力し、清掃・美化に取り組んだ。 ②コロナの影響もあり、ゴミの分別にも力をいれた。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	校舎内外の清掃・美化 ・清掃分担は監督しやすい場所にするよう配慮し、通年、清掃が日常活動として定着できるようにする。 ・用具庫が機能的に使用できる状態を維持し、必要なものは購入する。	清掃は日常活動として定着しているか。 用具庫を機能的に使用できるように維持しているか。	自分たちのクラスの分担の清掃用具の点検を行い、足りないものなど調査した。 来年度以降は、定期的に用具室の点検を行い、必用なものチェックをしたい。 新しい係に引き継ぎ、生徒全員で2回に分けて中庭の落ち葉や枯れ草などを集め、中庭をきれいにすることができた。	○		
2	委員会活動の活性化 ・日常清掃を最も重視し、自分たちのクラスの分担の用具、清掃状況を点検する。また、ゴミの分別を徹底する。 ・生徒会執行部とともに、校外清掃を実施する。	用具の点検整備、モップ洗い、ゴミステーション当番などしっかりと活動しているか。 計画に従って校外清掃が実施できたか。	日常の清掃活動もしっかりと行う事が出来た。今年度、新しいモップで校舎内・トイレなどきれいに清掃できた。 地域清掃では、生徒会執行部や整美委員などで計画的に行う事が出来た。 来年度以降もいろいろな場所の清掃に励んでいきたい。	○		

令和4年度【学校運営】領域（保健係）評価個票

今年度の重点目標			領域の評価(成果と課題)		総合評価		
① 生徒が心身ともに健康な身体で、安心安全な学校生活を送ることができるよう支援する。 ② 生徒支援委員会や特別支援教育コーディネーター等と連携をはかり、チームで細やかに健康相談が実施できるようにする。			4月下旬～5月は新型コロナウイルス感染症の広がりがあり、学校行事等の対応に追われる時期があった。その中で情報提供や感染防止の呼びかけに重点を置き活動した。2学期も第7波・8波の対応に追われてはいたが、個人の対応にも十分注意し安全安心な学校生活が送れるよう活動した。		A		
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C	
1	基本的な生活習慣の指導	睡眠、食事、服装、薬に頼らないなど、生活習慣の改善がみられたか。	スマートフォンの使用状況をみると、利用の仕方を工夫している生徒とそうでない生徒と二極化しており、家庭への呼びかけが必要。		○		
2	健康・安全意識の向上	定期健康診断を全員が受診したか。 必要に応じて専門医の受診を受けたか。 誰でも安心して利用できる保健室であったか。 生徒の観察を通じて、その健康状態を正しく把握できたか。 感染症の予防に努め感染拡大は防げたか。 職員・生徒への講習会を実施できたか。	今年度も新型コロナウイルス感染症予防の観点から健康診断や検診等の対応に努めてきた。 保健室休養者も多く、一人ベッドで休養したら枕・掛け布団カバー・襟元にタオルをかけすぐ交換できるようにした。 新型コロナウイルス感染症陽性者の感染後の後遺症と診断される生徒も複数名おり、対応を考えたい。 生徒保健委員会を通じて感染症対策や熱中症対策を呼び掛けた。	○		.	
3	生徒支援委員会、いじめ防止対策委員会等との連携、充実	保健室や生徒支援委員会・特別支援教育支援コーディネーター等と情報の共有をし、細やかに対応することができたか。 委員会と連携しながらチームで対応することができたか。	毎週木曜日に係会を持ち、各学年会からの生徒情報や保健室の様子等係で情報の共有に努めた。 アセスのアンケートの実施と注意が必要な生徒への聞き取り等できるだけ生徒の声を聴くよう努めた。 コロナ禍で、コミュニケーション不足にならないよう声かけをした。	○			

令和4年度【渉外】領域（PTA・厚生）評価個票

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価		
○会員が参加しやすい活動を計画し実施する。		一昨年、昨年に引き続き、コロナ禍により計画したほとんどの事業が実施できなかった。コロナ収束後には従来の活動が再開できることを願っている。			B		
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C	
1	PTA総会	総会・学年PTA・学級PTAへの参加態勢が十分であったか。	総会開催は見送ったが、議案書を全戸配布して議案の承認に代えた。	○			
2	鈴蘭祭PTAバザー・作品展	バザー・作品展を通じて、会員が鈴蘭祭へ積極的に参加することができたか。	一般公開が見送られたため、バザーは実施せず。作品展は数名の方に出品いただいた。		○		
3	大学見学 (PTA 研修旅行)	会員の進路指導への理解を深めることができたか。	コロナの感染状況をふまえて中止とした。		○		
4	ソフトバレーボール大会	クラス・学年で参加を呼びかけ、多くの会員相互の親睦をはかることができたか。	コロナ禍での実施は難しいとの判断から中止した。		○		
5	PTA会報	活動状況を会員に伝えることができたか。	夏期は発行済み、冬期も発行に向けて準備中	○			
6	校外巡視	生徒の実態を保護者にも理解してもらえたか。	PTA会員による巡視は見送り			○	
7	職員厚生	職員相互の親睦を深めることができたか。	コロナ禍により実施せず			○	

令和4年度【渉外】領域（同窓会）評価個票

今年度の重点目標		領域の評価（成果と課題）				総合評価
① 総会、理事会、等の会合が問題なく進められるように、同窓会と職員の連携を図る。特に110周年記念事業を円滑に進める。 ② 同窓会からの配布物、情報等が教員団に速やかに伝わるように配慮する。		全日制110周年・定時制70周年記念式典を無事終えることができた。記念式典対応のため同窓会と連携し情報交換が密におこなわれた。				A
NO	評価項目	評価の観点	評価（成果と課題）	A	B	C
1	活動計画の作成	同窓会、生徒、職員が活躍できる計画が立てられたか。	記念式典に向けた計画がしっかり立てられた。	○		
2	理事会・支部長会の準備、補助	事前の計画、準備等において理事会・支部会等の運営の積極的に関われたか。職員サイドと同窓会の橋渡しが円滑に行えたか。	理事会に向けて同窓会との協力がとても良くできた。	○		
3	総会の準備・運営。 110周年記念事業の準備。	会員にしっかりとした情報伝達の間としての総会を提供できたか。記念事業を円滑に進められたか。 110周年記念式典を円滑に進められたか。	式典、理事会とも円滑に進めることができた。	○		
4	会報作成への取り組み	校内の様子を速やかにとりまとめて、原稿を会報編集者に提供できたか。	各部署の協力により会報作成が速やかに行えた。	○		
5	「発展させる会」との連携	生徒と同窓会員が積極的に参加し、意見交換ができる場を提供できたか。新しい高校作りへ向けた意見集約ができたか。	残念ながら発展させる会は中止となってしまったが来年度に繋げてゆきたい。	○		